「おおむね満足できる状況」を理解する

一学年構成から見た書くことを中心にした評価

青山学院大学 岩崎 保

三「書くこと」の評価について

「書くこと」によって情報を発信したり伝達したりすることができるように文章の基礎作りを目ざす学習の評価である。「書くこと」は、生活文をはじめ、説明文、感想文、観察文、意見文、手紙文や、話すための原稿作りなど種類が多く、ここでそのすべてを取り上げることができないが、文章作りの基本となる学習についての評価例を示した。

(1) 一年生の「書くこと」では、平仮名の修得から始まり、初めて文を書くところから少しずつ長い文が書けるようになる過程を評価する。

「**は**」**を** **へ** **へ** **へ**」(四月) 初めて平仮名を書く学習での評価例

「書」**名刺に**「いちねん・名前などを平仮名で書き、言葉を交わしながら友達と交換してみよう」として。

文字が書けるようになったうれしさを、初めて書いた

主語・述語の関係と助詞の続き方を理解し、それぞれ文を作って、友達と使い方の正しさを音読しながら確かめる評価である。

「**て**がみを **か**こつ」(七月) 相手や目的を考えて初めて手紙を書く評価例

「書」だれに、何を書くかを考え、手紙にふさわしい形式で書いてみる。

実物のがきや手紙を見て、相手の名前や自分の名前を書くことを理解し、相手を決めて実際に手紙を書く。文章によるコミュニケーションを味わう評価である。

「**か**いて たのしむつ／あつまれ、ふゆの**こと**」**は**」(十二月) 季節を表す言葉に気づき、言葉を楽しむで使う評価例

「書」冬の言葉を集める目的で、連想した言葉を発表してみる。

「書」語と語をつなげて、かるたにふさわしい文を書いてみる。

お正月を間近にして、友達や家族と楽しむために、冬を連想した言葉を集めてかるたを作る評価である。「おもいで出して **か**こつ／いこ **こと** **い**っぴい、一年生」(二月) 一年生の思い出を絵と文章でまとめるアルバム作りの評価例

文字を読んで友達から自分の名前を呼んでもらえるうれしさを評価する。

「**か**きと **か**ぎ」(五月) 初めて濁音の文字の書き方を理解し、書く評価例

「書」**か**きと**か**ぎ「**さ**る**と**さる」などの組み合わせの言葉を平仮名で書いて、かるたを作っている。

「言」濁音がつく文字の音と表記を理解して、正しく読み書きしたりしている。

清音と濁音を書き分け、友達と相談してかるた作りをしてゲームを楽しむ評価である。言語事項の内容が読みと書きの一体化を示している。

「**は**」**を** **へ** **へ** **へ**」(六月) 助詞の「は・を・へ」を正しく使って文を書く評価例

「書」主語・述語の関係や助詞「は・を・へ」に注意して、語と語をつないで文を書いている。

「言」助詞「は・を・へ」を文の中で正しく使っている。

「書」写真や絵から思い出した出来事や、それにまつわる事柄について、アルバムを作るために書き出している。

「書」思い出したことが明確になるように、「いつ・何・どうだった」などを並べ、語と語や文と文との続き方に注意して分かりやすく書いている。

「言」句読点の打ち方やかぎの使い方と主語・述語に注意して書いている。

一年では、文を書くことの基本となるさまざまな語句や文章の約束、形式を学習してきた。その知識を駆使して一年間の歩みを綴り、書くことへの自信を膨らませる評価である。

(2) 二年生の「書くこと」は、単元が複合的な扱いになっているものが多く、評価の視点も広がる。

「**今**週の **ニ**ュース」(四月) 友達に知らせたいニュースを書く評価例

「書」クラスの友達に知らせるためのニュースの題材を身の回りから探し、書いている。

二年生になり、生活の範囲も広がってくる時期に、学校や家の近所の生活から知らせたいことを見つけてカードに書き、情報を共有する活動の評価である。

「**二**」お話、大すき／こんなお話を考えた」(十一月) 自分で考えたお話を作る評価例

「書」作品例の表現に学びながら、絵の順番を決めて、話がつながるように考えて書いている。

「書」下書きをした後で作品を読み返し、ストーリーがよく分かるようにアドバイスをもらって言葉や表現を書き直している。

「言」長音・拗音・促音・撥音と句読点、かぎなどを正しく使って書いている。

下書きした文章をグループで直し合い、一年生で学習した文字や表記にも気を配り、友達と助け合いながら意欲的に文章を書くことの評価である。

「五」くわしく思い出して書くこと／楽しかったよ、二年生「二」二月（二年生の学校生活を振り返り、書きたいことを選んで、順序を考えて書き、文集を作る評価例

「書」題材を決め、思い出したことを集めて詳しいメモを作っている。

「書」読む人に楽しさが伝わるように組み立てを考え、順序よく文章を書いている。

「書」文と文との続き方を考えて様子がよく分かるように書いている。

「書」友達の文章を読んでアドバイスしたり、友達の意見を参考に文章を見直したりしている。

書きたいことを事柄ごとにカードに書き、文章の構成を考える力を身につけるために、四つのステップ順に評価する。

「三」伝えたいことをはっきりさせて書くこと／新聞記者になろう／いろいろな符号

「書」グループで決めたテーマに沿って、調べたいことをあらかじめ整理し、必要なことを落とさないようにして、取材している。

「書」いちばん伝えたいことを考えて書く内容を整理し、内容を知らない人が読んでも分かるように、組み立てを考えて書いている。

「書」言文章を読み直し、符号などが正しく使われているかを確かめながら、間違いを直している。

友達や家の人に伝えるために、グループで相談し、新聞に取り上げる話題を選んで新聞を作る手順を理解する評価である。新聞のテーマ作り、取材のしかた、分かりやすい文章作り、そこから紙面作りまでを活動の順序に合わせて確実に評価し、支援しながら学習させたい。

物語を読み、おもしろさを友達に伝える複合単元（七月）の評価例

「四」本と友だちになろう／三年とつげ／本は友だち／本のさがし方

「読」学校図書館の本の分類のしかたを理解し、

「言」句読点の打ち方やかぎの使い方、長音・拗音・促音・撥音や、助詞の表記を正しく書いている。

まさに、低学年の「書くこと」の指導事項のすべてをまとめる評価をしている。つまり、書くことの知識・技能がどのくらい定着しているかをじっくりと個別に評価し、三年生に向けて、「一人のつまずき」に対応して個別指導を実践するような評価としたい。

(3) 中学年では、三年生で「書くこと」の生活についての基本的な理解を評価し、四年生では継続的な実践を確かめながら評価している。

説明的文章を書く基本単元（五月）の評価例

「三」分かりやすく書くこと／おもしろいもの、見つけた／様子をつたえる

「書」何について書くかを決め、教科書に準じた力ードに、一または二項目書いている。

「書」詳しく思い出して、カードに書き加えている。

「書」どの順序で書くか、カードを並べ替えるなどして考え、事柄ごとに段落に分けて書いている。

「書」様子をつたえる」の内容を理解し、自分の文章を直している。

「言」句読点を適切に打ち、段落の初めは行を改めて書いている。

いろいろな国や地域の本、自分がおもしろいと思えるような本を探して読んでい。

「書」選んだ本について、いちばんおもしろいと思うことを選んでい。

「書」例示された帯を参考に本のよいところが伝わるように、言葉や文を短く分かりやすくまとめて書いている。

自分の好きな本を探して読書し、おもしろさを伝える目的で文章を工夫して「本の帯」を作る学習である。学習ステップごとに立ち止まって評価で確かめ、支援するが、四年生でも同じ手順で評価する。

「四」本と友達になろう／白いぼつ／本は友達／本の探し方

「読」本の探し方が分かり、いろいろな読み物の中から興味のある本を探して読んでい。

「読」紹介する本を決め、紹介したい部分を考えながら読んでい。

「書」自分が紹介したい本について、必要な事柄と伝えたい内容を決めている。

「書」いちばん伝えたいことが分かるように、見出しやレイアウトを考えて、「おすすめカード」を書いている。

図書館利用なども主体的にできるようになり、読書した本の「おすすめカード」の原稿を「見出し・レイアウト」などを工夫して書き上げる学習評価である。

考えて、書いて、話す総合単元(二月)の評価例

- 「四 言葉って、おもしろいな／漢字と友だち」
- 「書」漢字たんじょう物語」を考えて書いている。
- 「書」教科書の例から「漢字の書き方歌」を理解し、適切な漢字を選んで筆順を追ってまとまりに分け、歌を一、二作って書いている。

三年

「書」漢字を組み合わせた新しい漢字を一、二作り、物語風に書いている。

「話・聞」自分が考えた「漢字たんじょう物語」「漢字の書き方歌」、創作漢字物語について、友達に分かるように発表している。

漢字のでき方・書き方に関心をもち、漢字が生まれてきた経過を知り、その漢字の物語や歌を作って発表する学習である。また、自分で発明した漢字を誕生物語に書いて友達といっしょに言葉と漢字を楽しむ学習でもある。

四年

「四 言葉って、おもしろいな／言葉遊びの世界」

「書」教科書の例に沿って、言葉遊びを作ったり、本で調べて書いたりしている。

「話・聞」自分が作った作品(クイズ・詩)や調べ

あり、本のおもしろさや良さを紹介できることにある。

六年

「四 読書の世界を深めよう」森へ／本は友達

「読」友達の要望にこたえる本を探し、必要なことに注目して読んでいる。

「書」友達の要望に合わせて自分の伝える内容を選び、工夫して紹介文を書いている。

「話・聞」友達に薦めたい本のおもしろさや不思議さなど「」で紹介のしかたを工夫して発表している。

「」での要望とは、「こんなことを知りたい」「こんな感動を味わいたい」ということであり、これにこたえる本をグループで探すことから始まる。見つけるためにいろいろと本を読み、感想や薦める理由をまとめ、紹介文や情報カードを書いて、読書発表会に参加する評価となる。

「書くこと」を中心として活動する、「学習したことを生かして」(二月)の中で生かされる評価例

「学習したことを生かして」大造じいさんとガン」

「話・聞」自分の感想や意見を友達に聞こえる音量と速さと適切な言葉遣いで話したり、友達の発表を注意深く聞いたりしている。

五年

「読」発表する目的と内容を明確にしながら読み取り、必要な資料を集めて読んだり、友達と相談して自分の感想を深めたりしている。

てまとめたことなどについて、言葉遊びのおもしろさが伝わるように発表している。

「言」言葉遊びを通して、言葉の音や意味などにかかわる性質を理解している。

三年も四年も言葉に関心をもち、言葉を作ること、その内容を説明するために文章を書く学習に、新しい言葉の発見を期待したい。

(4) 高学年の「書くこと」の評価例は、総合学習の中の働きについての評価を比較する。

読書した感想を軸とした総合単元(七月)の評価例

「四 読書の世界を広げよう」千年の釘くわにいどむ／本は友達」

「読」本は友達」を参考にして、グループのテーマに沿って本を探して読み、読書会の目的に沿って必要な部分を書き出してている。

「話・聞」読んだ本について、目的に合った内容をまとめて発表している。

「書」読んだ本についての感想や意見をまとめ、読書会を踏まえて書きまとめている。

五年

低学年から系列化した読書単元であるが、五年生ではグループごとにブックトークで発表することが目的である。その基盤は、感想をまとめて意見文を書く評価で

「書」発表内容が相手によく伝わるように、分かりやすく文章を書いたり、招待状やプログラムを作って発表会の準備をしたりしている。

学年末に学習発表会を開くに当たって、聞き手によく分かる発表原稿を書くことが中心となるが、発表会を開くための招待状やプログラムを書くことも、書く学習を積み重ねてきた重要な能力として評価をしていきたい。

「学習したことを生かして」海の命／今、君たちに伝えたいこと／生きろ」

「話・聞」考えたことや自分の意図が分かるように話の組み立てを工夫し、適切な言葉遣いで話したり、グループの考えをまとめる方向で話し合ったりしている。

「書」目的や意図に応じて自分の考えを確かめ、効果的に組み立てて表現を工夫して書いている。

「書」事象と感想・意見などを区別して、目的や意図に応じて文章を簡単に書いたり詳しく書いたりしている。

六年

小学校最後の国語学習は、自分の思いや考えを他人に伝える能力の定着と活用の総合学習である。特に、「命の大切さ」と「自分が生きる」ことに対する感想、意見を書きまとめて自覚している姿を評価することであり、中学校進学への決意を真摯に表明させて自信をもたせたい。